２０２３年度　協同組合講座テーマ

資本主義を超える経済体制と文明
―改革から変革へ―

第１回　資本主義を超える体制論・文明論・変革論

はじめに
１　経済体制論と文明論
２　社会的連帯経済（SSE）の経済体制論
３　新たな経済体制をめざす改革構想と変革への道

2023/7/23

津田直則

はじめに

- 2023年度の協同組合論講座の内容は，2022年夏に出版した拙著『資本主義を超える経済体制と文明－改革から変革へ－』（晃洋書房）の概略を紹介する．この著書は筆者が50年かけてようやく完成した経済体制論と文明論である．

- 上の著書は第1部と第2部に分かれており、第1部は新たな原稿4章からなる．この第1部を講座では4回に分けて概説する．第2部はトピックスについての既発表論文等の再掲載であるので講座では省略する．

１　経済体制論と文明論

１－１　資本主義経済体制におけるパラダイムの問題点

資本主義経済体制のパラダイム

① 新自由主義

② 営利動機の株式会社

③ 競争システム

④ 市場システム

⑤ 政府システム

３つの危機：経済システムの危機、人間性の危機、自然環境の危機

危機とパラダイムの直結

１－２　パラダイム転換は新たな文明の始まりー社会的連帯経済（SSE）はそのひな形

パラダイム転換の方向

①自由のみではなく，自由と正義を両立させる思想への転換.

②営利動機ではなく，人間社会の真の目的をめざす経済主体への転換.

③競争ではなく，協力・連帯を基礎にしたシステムへの転換.

④市場原理主義ではなく，公益分野の規制，投機市場の廃止，資源の有効利用をめざす計画導入への市場システムの転換.

⑤権力者のシステムではなく，市民社会と連帯する政府システムへの転換.

１－３　パラダイム転換の先に見えてくるのが社会的連帯経済（SSE）

社会的連帯経済の特徴

- 非営利セクターという共通性（利潤は目的ではない）を有する.
- 競争ではなく協力や連帯を重視している.
- 構成員は民主主義，参加，連帯，公正等の価値を共有している.
- 非営利組織は1人1票の民主主義を基礎にしている.
- 共益，公益，共同所有（私益ではない）を重視している.
- 18世紀欧州アソシエーション運動の市民ニーズに応えるところが源流である.
- 先頭を走る国々では理念・価値を実現する原則・制度・システムを備え，新たな経済体制の形を備えつつある.

SSEのこれら特徴は資本主義パラダイムの変革方向①～⑤と大変近い.

１－４　新たな文明における究極の価値体系（試論）

- 愛,自由,正義,連帯,社会的公正,公平,平等（**連帯を基礎にした社会の原点の価値**）.
- 連帯,互恵,団結,救済,協力,支援,合意,賛同**(分かち合い社会の価値)**.
- 個と全体,私益・共益・公益の調和,人間の社会的統合（**調和・共存社会の価値**）.
- 民主主義,参加,共存,共生,信頼,絆（**人間を大切にする社会の価値**）.
- 誠実,配慮,思いやり,寛容,優しさ（**倫理・モラルを大切にする社会の価値**）.
- 働きがい,生きがい,労働の人間化（**働く者を大切にする社会の価値**）.
- 共生,保護・保全,美しい,すがすがしい,やすらぎ（**自然と人間の共生社会の価値**）

現代は来るべき新たな文明における究極の価値体系について述べることが可能な時代である

２　社会的連帯経済の経済体制論

２－１　経済体制分析のための４つの分析道具

①　価値実現の制度・システムの分析

理念・価値は非営利組織の目標，制度はそれを実現する手段，システムは制度の集合.

②　効率実現の制度・システムの分析

効率は競争社会では不可欠な条件，制度はそれを実現する手段，システムは制度の集合.

③　連帯システムの分析

連帯システムとは，価値実現と効率実現を協同組合の連帯によるシステムで実現すること.

④　連帯システムから生じるメカニズムの分析

メカニズムとは理論的因果関係で，価値実現と効率実現の根拠を示す.

２－２　協同組合の経済体制（一般論的議論）

価値実現の制度・システム

- 参加・民主主義を実現する制度・システム.
- 報酬の公平を実現する制度・システム.
- 協同組合教育を実施する制度.
- 地域社会を支援する制度**等.**

効率実現の制度・システム

- 意思決定のガバナンス・システム
- 協同組合インフラを形成する制度・システム.
- 金融機関の制度・システム.
- 高い貯蓄率・投資率を実現する制度・システム.
- 起業支援の制度・システム**等.**

モンドラゴン並びにイタリア協同組合の経済体制は，次回の講座で詳細に議論する.

２－３　連帯システムの重要性と社会的連帯経済の課題

連帯システムの重要性

- 非営利組織は競争市場では株式会社と闘うのが容易ではない.
- 価値（理念）が目的であり，効率も無視できない（二兎を追わざるを得ない）.
- しかも価値と効率の間にはトレードオフがありこれが非営利組織の最大の課題.
- この問題を克服するのが「連帯システム」.
- 連帯に基づく制度・システムにより価値実現と効率実現の双方を可能にする.

社会的連帯経済の課題

- 理念と価値体系の完成.
- 中小企業も社会的連帯経済の仲間に入れるべきである.
- 社会的連帯経済の何が一般で何が特殊かを各国の実証研究により明らかにする必要.

3　新たな経済体制をめざす改革構想と変革への道

３－１　改革における２本の大黒柱と変革への道

各国の社会的連帯経済の発展度は異なっている.
日本は余りにも遅れており非営利組織は衰退さえ見せている.
改革構想はこの流れを逆転させる構想であり中心は２本の大黒柱.

第１は協同組合の体質を強化する「連帯システム」の形成.

第２は株式会社大企業を「従業員所有企業」に転換しそれを更に「労働者協同組合」に転換する改革.

これら２本の大黒柱とその他の改革を合わせた改革構想により，資本主義経済を変革し社会的連帯経済を実現することが可能になる.

３－２　改革構想

１）非営利組織を目覚めさせる戦略
　1-1　理念をめぐるシンポジウムなど
　1-2　実践をめぐるシンポジウムなど
　　意識改革

２）協同組合ESOTによる株式会社の改革
　2-1　大企業の従業員所有化
　2-2　中小企業の従業員所有化
　2-3　倒産企業の従業員所有化
　　株式会社改革

３）協同組合のナショナルセンター創設と戦略
　3-1 協同組合「連帯システム」の形成
　3-2 協同組合の町と社会的連帯経済の町の建設
　3-3 協同組合への多様な道の戦略化
　3-4 生協の大規模仕入れ機構の創設
　3-5 生活困窮者自立支援法制定
　　協同組合の核心形成

4）豪州・マレーニ協同組合の共生モデルの導入
- 4-1　過疎の再生モデル：マレーニ
- 4-2　共生モデル：クリスタルウオーターズ

過疎の再生と持続可能な共生モデル

5）協力・連帯社会をめざす４段階ネットワーク
- 5-1　市民ネットワーク
- 5-2　広域ネットワーク
- 5-3　全国ネットワーク
- 5-4　国際ネットワーク

縦社会からネットワーク社会へ

6）研究者のネットワーク形成
- 6-1　理論・実証・構想の国内ネットワーク
- 6-2　海外の研究者とのネットワーク

研究者と実践家の分業・統合

7) 法制度改革
- 7-1　従業員所有化のための法制度導入等
- 7-2　社会的協同組合法導入

制度の法制化

３－３　改革への壁と突破のカギ

改革への壁

既得権

権力意識

党派性

タテ社会の慣習

個人主義

資本主義的慣行

改革の遅れに伴う隘路

突破のカギ

市民ネットワークのリーダー

非営利組織の支援

３－４　４段階ネットワークに関係する実践

第１段階 市民ネットワーク

和泉市 いずみ創造ネット，谷山池を守る会.

堺市南区 泉北ニュータウン学会の創設，みどりのつどい.

第２段階 広域ネットワーク

労働者協同組合法制化運動（センター事業団関西本部との連携）.

広域ネットを束ねるシンポジウム（新潟県・東海三県・近畿二府四県からパネラー４人）.

第４段階 国際ネットワーク

イタリア・ボローニャ大学のマルゾッキ教授の招聘と講演会（大阪・東京）.